

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立小松小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

国語、算数については「全国の平均正答率」よりやや低いレベルにありましたが、国語科の記述式で答える問題については、全国平均よりも高い正答率でありました。また、質問紙調査では、全国の状況と比較して、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問に全員が肯定的な回答をし、「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の質問では、「よくある」と回答した数値がとて高く家庭・地域と連携を図りながら進めている日常的な教育活動の成果と考えています。

《強み・弱み》

国語では「書くこと」が高いレベルで、本校の強みです。物語を読み理由をつけて自分の考えを100字以内で書くという問題は、8割近くの正答率であり記述式の問題は、良い結果でありました。他の記述で回答する問題も高い正答率であり、文章で表現する力についてはついてきていることがわかります。課題がみられたのは「言語の特徴や使い方に関する事項」です。漢字の読み書きや、主語を見つける問題の正答率が低く、特に漢字については無答率も高く確実な定着を目指す必要があります。算数では、「数と計算」「図形」は、正答率が高く、確実な力がついています。課題が見られたのは、「測定」「変化と関係」「データの活用」です。記述式での回答が、算数では力が発揮できず言葉での説明が上手くできていないことがわかります。また、無答率が高く、問題を何度も読み込まずあきらめている様子も見られるので、問題を理解する力をつけていく必要があります。「学習状況調査」で、全国と比較して「強み」と考えられるのは「人の役に立つ人間になりたい」「授業で学んだことを他の学習で生かしている」「幸せだと感じる頻度が高い」「学校が楽しい」「困りごとや不安があったら学校の先生や大人に相談できる」等の項目です。一方、課題があり、「弱み」と考えられるのは「家庭での学習時間の短さ・デジタル機器の長時間使用」「英語への関心」「新聞を読む」の項目でした。今後も、社会に貢献したいと考えている気持ちを大切に、学習や行事等に積極的に取り組ませていきたいと思ひます。

【指導の充実に向けて】

1. 基礎・基本の力を確実につける学習活動を充実させます。

漢字や言葉、計算などの基礎基本の確実な定着を目指します。小テストや繰り返し練習、指導を工夫します。「音読名人」「作文名人」を続け、「読む」「書く」力を付けます。算数では問題の解き方を図や言葉を用いて説明できるようにします。また、学習のふりかえりの時間を確保し、振り返りカードを掲示し、主体的に振り返らせ、次の学習に繋がります。

2. 家庭学習の習慣化を図るとともに、授業と家庭学習をつなぐ取組を進めます。

学習課題の習熟を図るために家庭と連携しながら、確実に家庭学習の習慣化を図ります。また、「授業で学んだことを振り返る」「授業で疑問に思ったことを調べる」等、自分で見つけた学習課題をiPadを有効に活用し調べるなど、授業と家庭学習をつなぐ取組を進め、児童がより意欲的に家庭学習に取り組めるようにします。

3. 基礎的な習慣を身につけることを目指して指導します。

「相手の目を見て話を聞く」、「時間を守る」、「忘れ物をしない」、「文字を丁寧に書く」、「気持ちの良い話し方をする」、「最後までやり遂げる」を意識して指導します。

4. 読書活動を充実させます。

読書タイムを設けたり、図書館の団体貸し出しを利用したりして、読書活動を充実させます。